

とよ・たち ♡



☆ 美肌通信

9月号

vol.122



☆ 風早糸紅里 & 優佳里 ☆

September

今月号のとよたち美肌通信の表紙は、

とてもかわいらしい人魚姫と、たくさんの
海のお友達たちが楽しそうにあそんでいる
絵です!! 人魚姫の髪がすてきです♡♡

絵を描く事と、さかあがりが好きで、

連続でさかあがり得意な女の子が、

姉妹でよく描いてくださいました。

ありがとうございます!

院長はじめ

スタッフ一同

バリエリ感謝いたします



外出自粛は非常に辛いですよ。確かに辛い
と思えば辛いことでしょう（現在 R2.5.6）。

しかし、75年前 太平洋戦争 当時の日本人は
疑いもなく 国一丸となって 耐え忍んだ。

現在とは 質の異なる、また次元の異なる 心
憂い状態であったことは 想像に難くない。

国土のあちらこちらに 度重なる空爆を受け、
沖縄戦での地上戦を被り、広島長崎に
2度の原爆を受けた。

このことと比べれば、捉え方や認識の仕方
によっては 自宅待機など 全く楽なものだと言
えよう。

自分の運命を 切ないと思う事は 誰にだ
ってある。「何で私か こんな目に...」。

そう思うことは 誰しも 経験する。

問題は 実はその次にある。道の別れ目は
その次にあるのだと思う。

毎日見ていた 空が変った
涙を流し友が祈ってくれた
あの頃
恐る恐る聞いた マタイの福音書
あの時から 空が変った
空が私を 見つめるようになった

新任の体育教師であった星野富弘氏は、
3ヶ月後 クラブ活動の指導中、頸髄を損傷
し手足の自由を一瞬にして失った。この詩はその
時のことを回想しよんだものと私は解釈している
が、既にこの時星野氏は自分の身に起きた現実
を受け容れ前進している。

「とよ・たち5月号」に私が書いた「太極図」に通じる
星野富弘氏の詩を紹介したい。

雨を信じ 風を信じ
暑さを信じ 寒さを信じ
楽しみを信じ 苦みを信じ
明日を信じる
信じれば
雨は恵み 風は歌
信じれば 冬の枝にも花ひらく
院長、拝